

「2019年の回顧と2020年の展望」

～ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと～

機械金属部会

山田 佳宏

2020年3月5日

《当部会会員企業の事業分野》

事業・製品分野	会社数	事業・製品分野	会社数
インフラ全般	2	油圧機器・マシニングセンター	1
鉄鋼	4	切削工具	2
電力関連	1	潤滑油	1
建設機械	3	金属加工油剤	1
小型ディーゼルエンジン	1	ベアリング	1
トラクター	1	ドライブシャフト	1
移動式クレーン	1	紙パルプ関連	1
ポンプ	1	プラント・工場用制御システム・機器	3
レーザー切断機	1	計17分野	延26

(注) 複数分野を有する会社は、該当分野毎に重複してカウント。

Principal会員企業51社中、今回シンポジウム用レポート提出があった会社について集計

目 次

1. マクロ指標関連

2. セグメント別状況

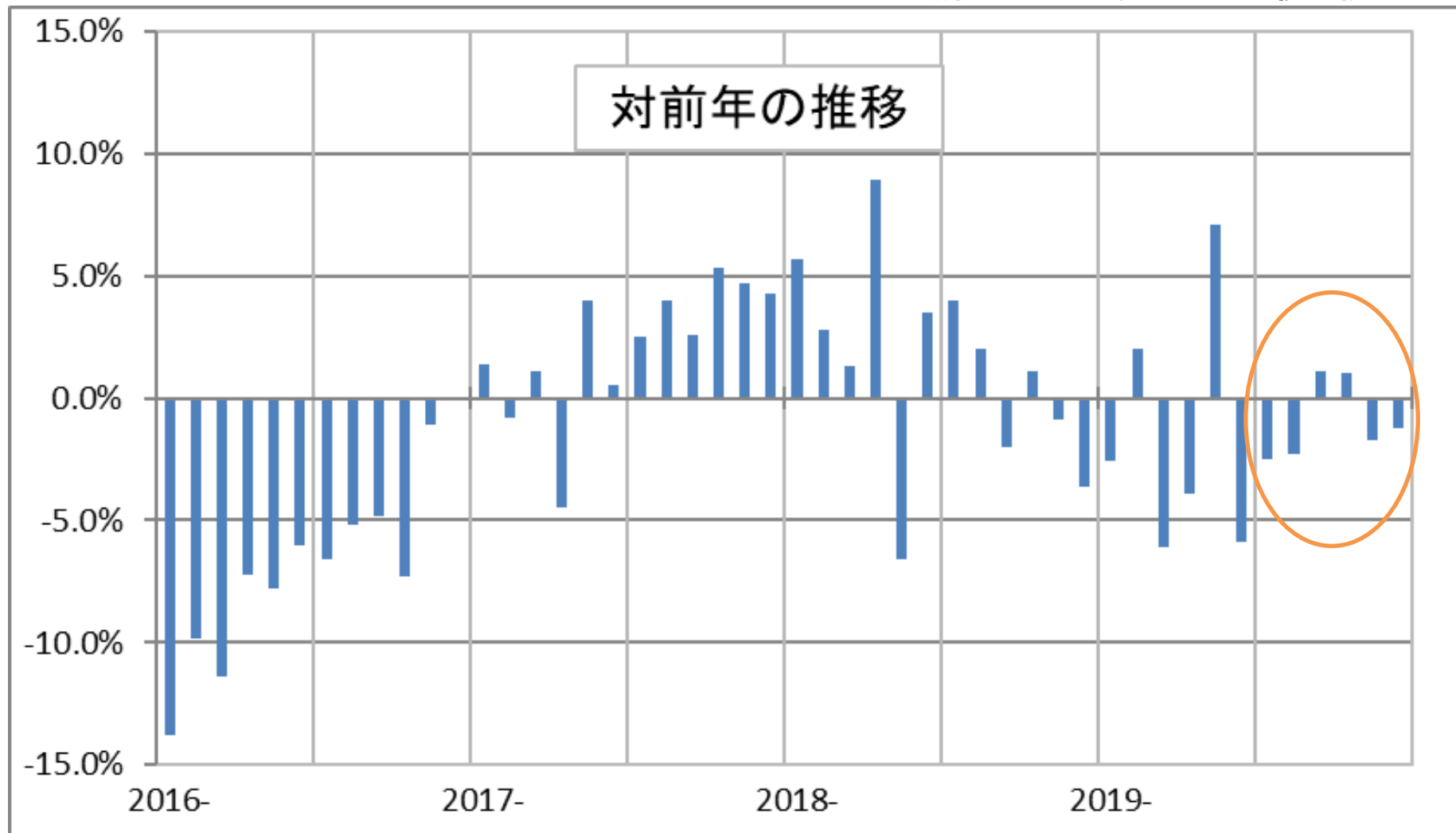
- (1) 鉄鋼
- (2) 電力
- (3) 建設機械
- (4) 自動車産業関連
- (5) 農業・産業機械関連
- (6) 石油・ガス、紙パルプ他関連

3. 副題 ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと

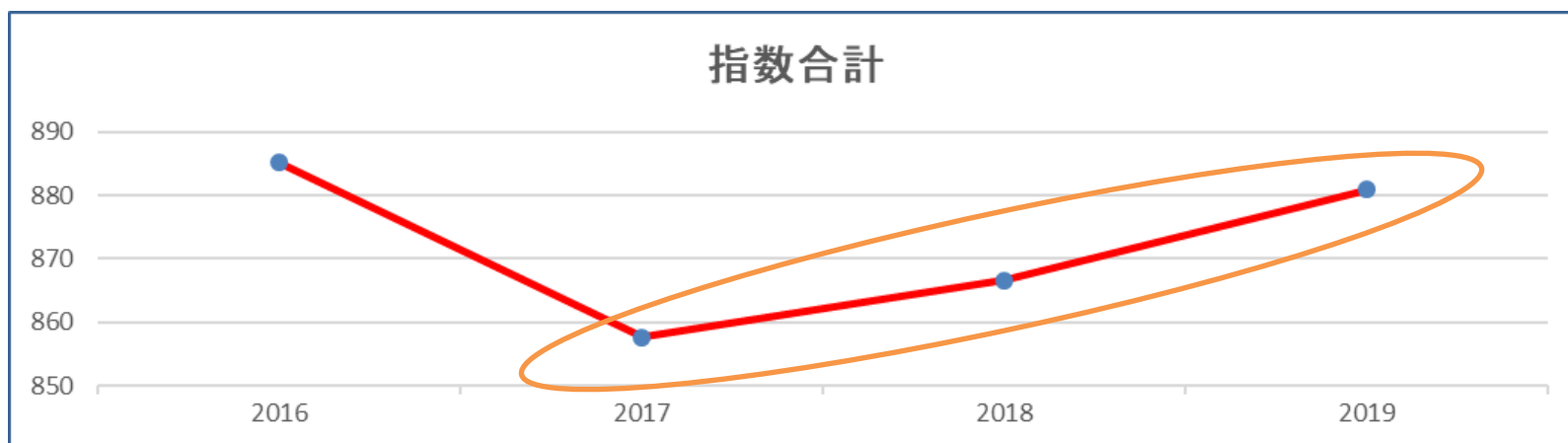
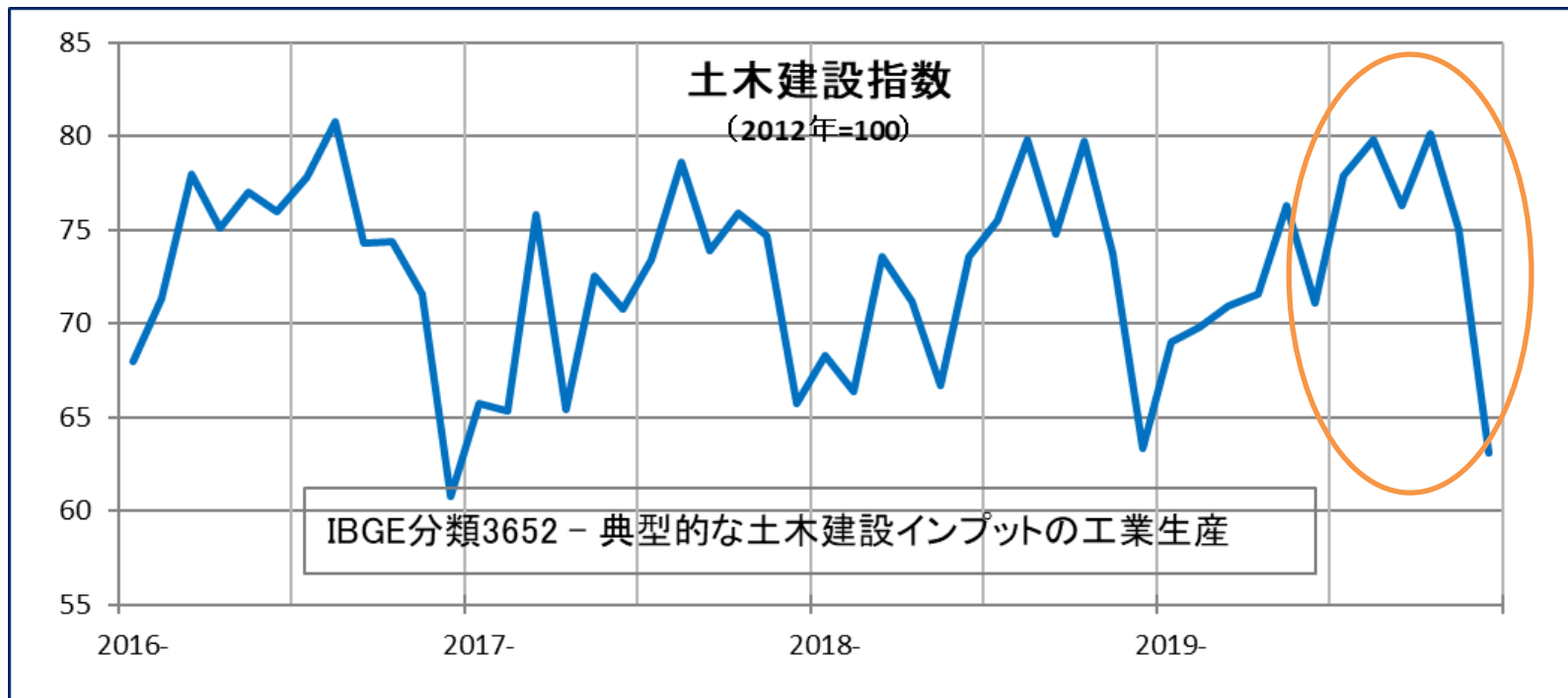
1. マクロ指標(1)

ブラジル鋳工業生産

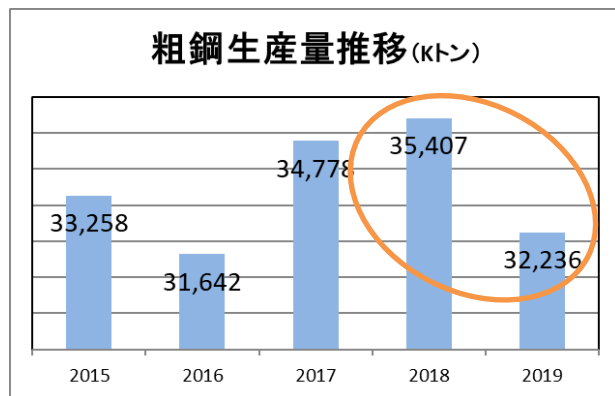
出所: IBGE(ブラジル地理統計院)



1. マクロ指標 (2)



2. セグメント別状況(1) 鉄鋼



2019年1-12月実績 数量: 千トン、前年同期比、ブラジル鉄鋼協会 (IABr)

	生産		国内販売		輸出	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
粗鋼*	32,236	▲ 9.0%	18,513	▲ 2.2%	12,815	▲ 8.1%
圧延鋼板	13,049	▲ 8.5%	10,747	▲ 2.6%	2,160	▲ 13.8%
形鋼	9,149	▲ 3.1%	7,429	▲ 0.1%	1,742	+ 1.1%
スラブ	7,750	▲ 11.5%	168	+ 33.3%	8,668	▲ 5.7%
他	1,088	▲ 5.9%	169	▲ 48.2%		
					輸入	2,361 ▲ 1.9%

*国内販売・輸出欄は合計

(注)輸出は国内ミルのみの統計

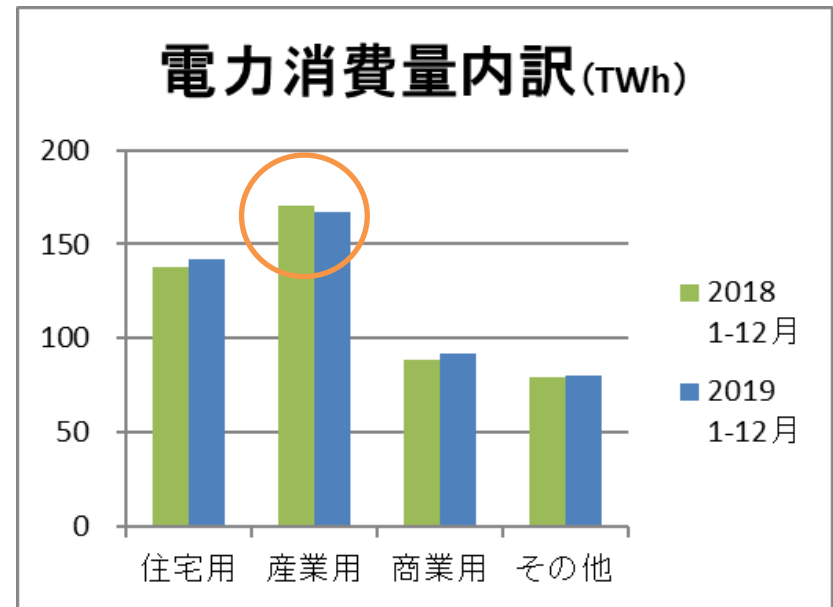
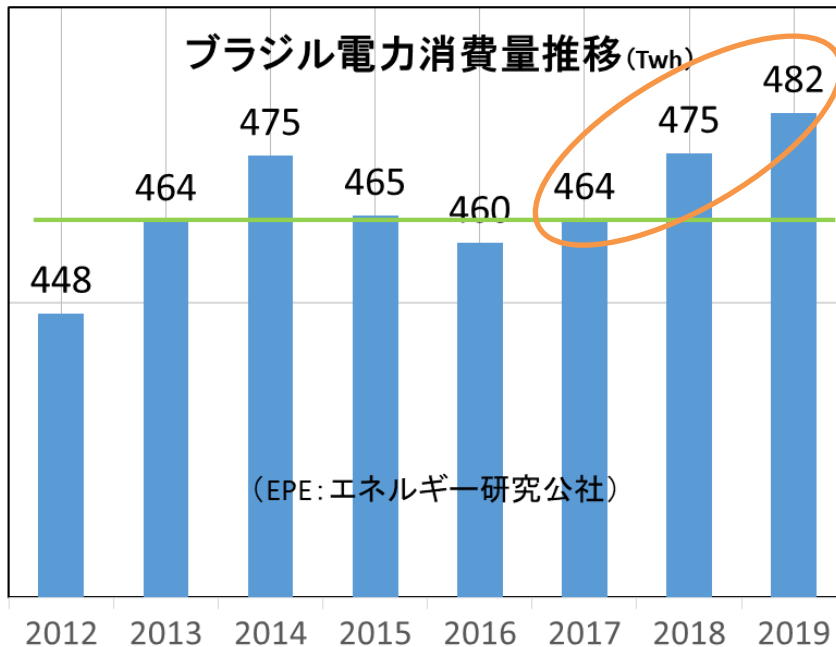
《2019年の回顧》

1. 生産 2019年の粗鋼生産量は、年初の鉱滓ダム決壊以降の鉄鉱石供給不安定化その他の事情で、対前年比 Δ 9.0%のマイナスとなった。
2. 国内需要 内需を示す国内鋼材見掛消費量は、年初見通し(前年比+9%)を大幅に下回る対前年比 Δ 2.7%のマイナスとなった。国内経済の不振が、主な要因。
3. 輸出 対前年比で Δ 8.1%の減少。世界経済停滞、国際市況の大幅下落等の中で、中南米・EU向けが大きく減少。

《2020年の展望》

1. ブラジル鉄鋼協会は、2020年の粗鋼生産見通しを対前年比+5.3%、同鋼材見かけ消費量見通しを+5.2%と発表している。
2. これはブラジルGDP成長率見通しの改善や、金利・インフレ等の安定化を背景としているが、一方で米中貿易問題や新型コロナウイルスの動向も注視する。

2. セグメント別状況(2) 電力



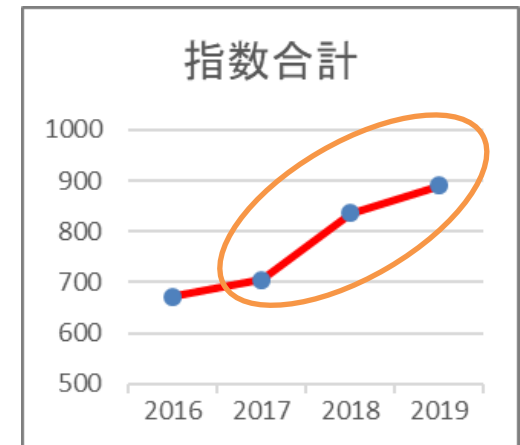
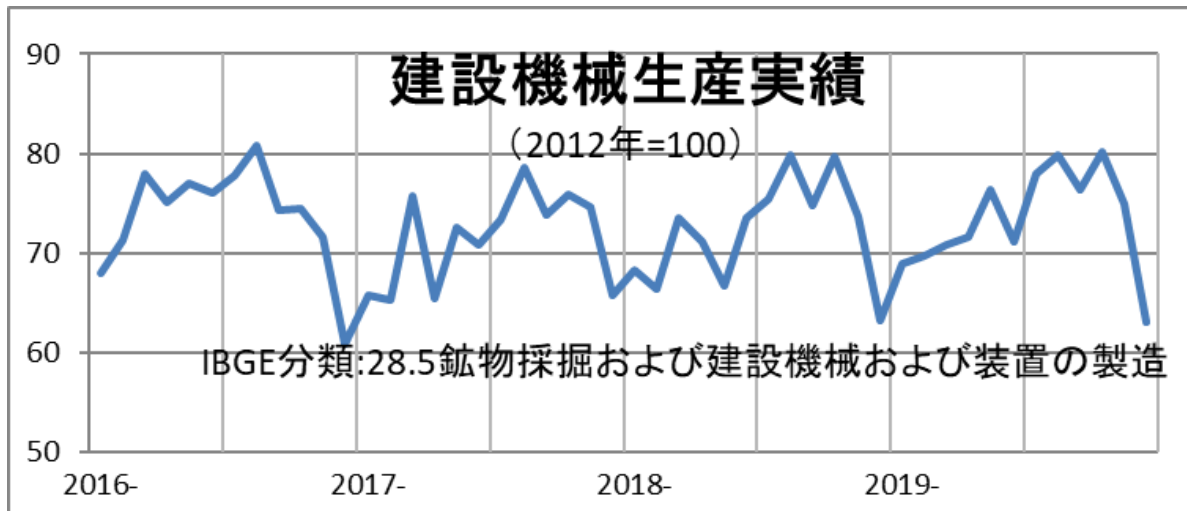
《2019の回顧》

1. ブラジル電力消費は、トータルでは、最近のピークであった2014年レベルまで回復した2018年実績を更に上回った。ただし、住宅・商業用等の需要増加が全体の伸びを牽引し、産業用は対前年を下回った。
2. 電力オークションは、風力・太陽光の影響で、相変わらずの安値となった。

《2020年の展望》

当部会関連企業が関係するバイオマス関連の動きは、引続き低調と見込まれる。このため、既存プラントのアフターサービス拡大に注力する。

2. セグメント別状況(3) 建設機械



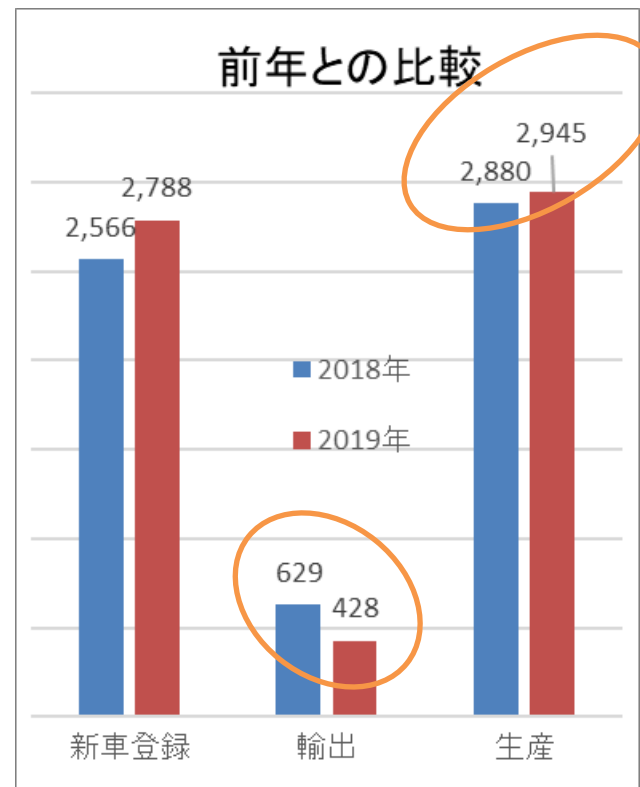
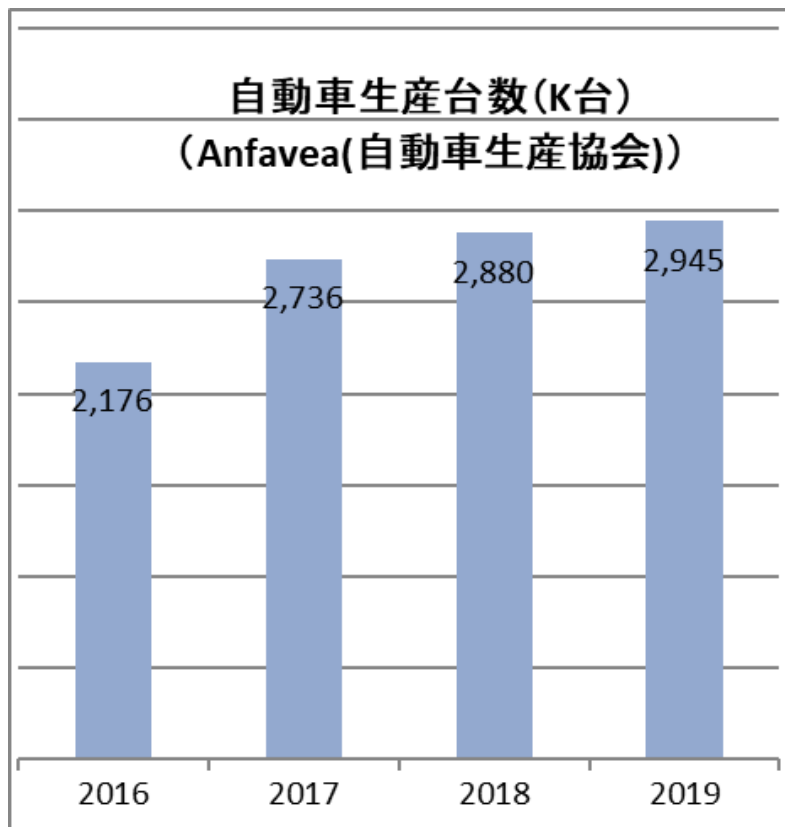
《2019年の回顧》

1. 建設機械の国内販売は、対前年比+28%(10300台)と年初予想の3%を大きく上回った。これは、建設関連需要が底固い回復を示したこと、レンタル向けが堅調であったこと、官公需向けが微減に止まったためである。
2. 輸出は、アルゼンチン向けが低調であった一方、米国向けやフィンランド向けの出荷が下期に急増し、通年では対前年比+2%(9600台)となった。

《2020年の展望》

1. 国内需要 年金改革等による景気回復期待感の向上とブラジル史上最低の金利水準等により、10%程度の伸びと見込まれる。
2. 輸出 米中貿易問題の進展はあったものの、引続き、動向を緊密に注視する必要あり。

2. セグメント別状況(4) 自動車産業関連①



《切削工具》

- ・2019年:主ユーザーである自動車産業や農業機械の動向を反映し、国内向けは比較的順調。一方、アルゼンチン他、南米他国向けは大きく落ち込んでいる。
- ・2020年:米中貿易問題や新型コロナウイルス等の懸念はあるが、自動車・トラック・建機・農機向け案件をフォローする。

2. セグメント別状況(4) 自動車産業関連②

《ベアリング》

- ・2019年:自動車向けは、アルゼンチン向け輸出の落込みにより、年初見通しには到達せず。一方、二輪向けは堅調。一般産業機械向けは、下期の需要が盛り上がりずに終了。
- ・2020年:二輪向けは引続き堅調であるものの、自動車向けは期待薄。一般産業向けは、期待値は高いが、ポジティブな数値にはなっていない。

《ドライブシャフト》

- ・2019年:アルゼンチン向け自動車輸出の落込みや一部モデル切替による需要減の影響で、前年を下回った。
- ・2020年:アルゼンチン向けの低迷はあるが、新規モデルの需要増等で増加を計画。

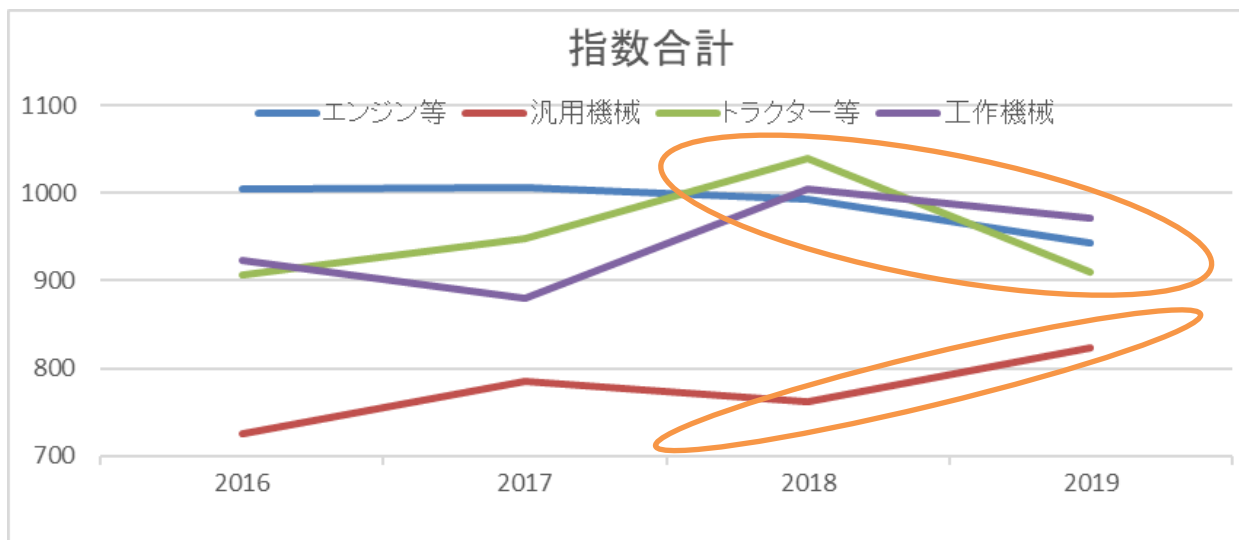
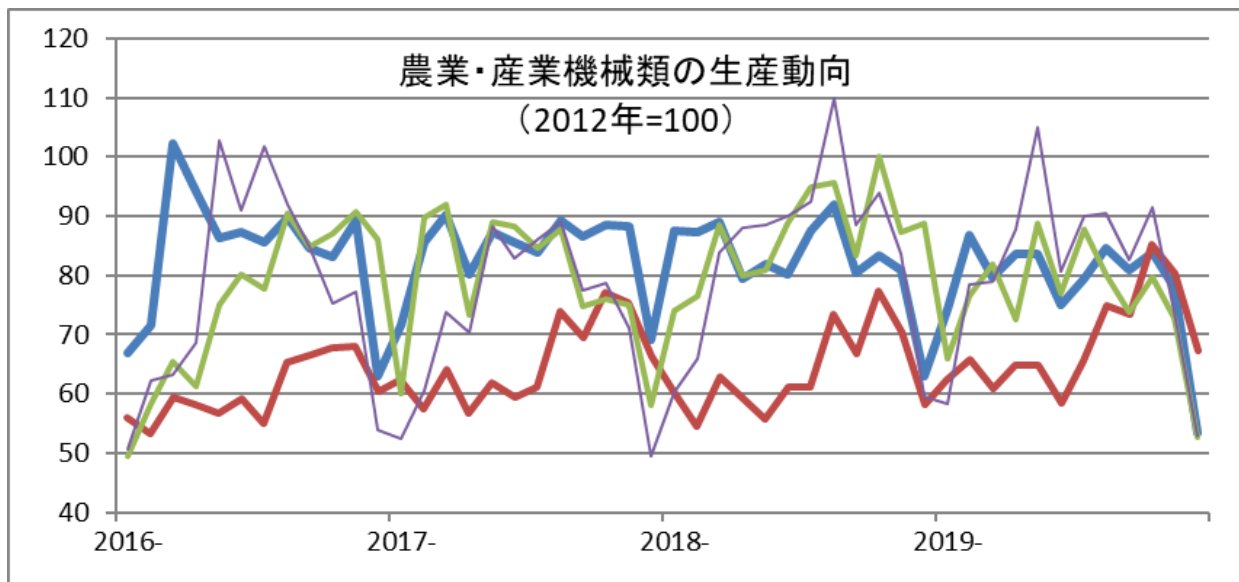
《潤滑油》

- ・2019年:自動車・フォークリフト向け初期充填油の増加はあったものの、対アルゼンチン向けや主要需要家の使用量削減に伴い、対前年比で微減となった。
- ・2020年:大型新規案件の獲得による売上増加を目指す。

《金属加工油剤》

- ・2019年:新車生産微増に伴う販売数量増加を期待したが、実現せず。客先における消費財の使用量削減、コストダウンの影響と思われる。
- ・2020年:自動車生産の増加は見込まれるものの、見通しは不透明。

2. セグメント別状況(5) 農業・産業機械関連①



- 28.1 エンジン、ポンプ、コンプレッサー、
トランスミッション機器の製造
- 28.2 他の汎用機械装置の製造
- 28.3 農業および家畜用トラクター
および機械装置の製造
- 28.4 工作機械の製造
- 以上いずれもIBGE分類

2. セグメント別状況(5) 農業・産業機械関連②

《小型ディーゼルエンジン》

- ・2019年:多気筒(日本製)と発電機セットの販売は回復したが、横型単気筒が大きく落込み、対前年比で台数減、金額増となった。
- ・2020年:多気筒(日本製)は拡大が予想されるが、20馬力以下の単気筒エンジンは、市場自体の縮小と安価な中国製の影響で低迷が続く見込み。
- ・このため、58年間継続してきた単気筒のブラジル国内製造を中止し、インドネシア製に全面切り替えした。

《トラクター》

- ・2019年:BNDESの農業向け低利融資が停止状態となったことにより、低迷。
- ・2020年:BNDES融資の改善は見込めないが、農作物の収穫が良好なことに伴い、対前年比で増加を期待。

《ポンプ》

- ・2019年:前半は前年並みであったが、8月以降受注・売上ともに増加に転じ、年末にかけて拡大。(水中ポンプと陸上ポンプ販売統合(2018年)成果)
- ・2020年:一部不透明感はあるものの、昨年後半からの回復基調の継続を期待。

《レーザー切断機》

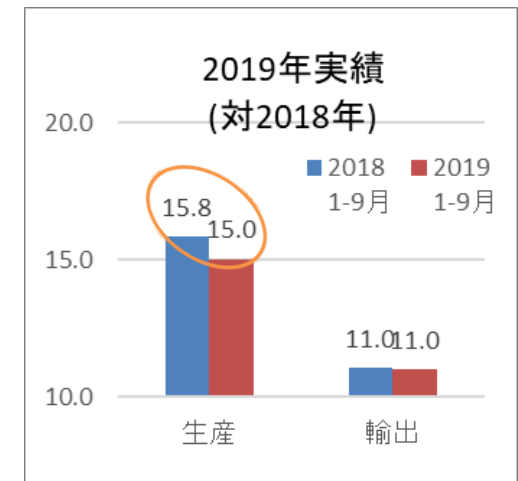
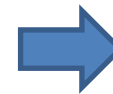
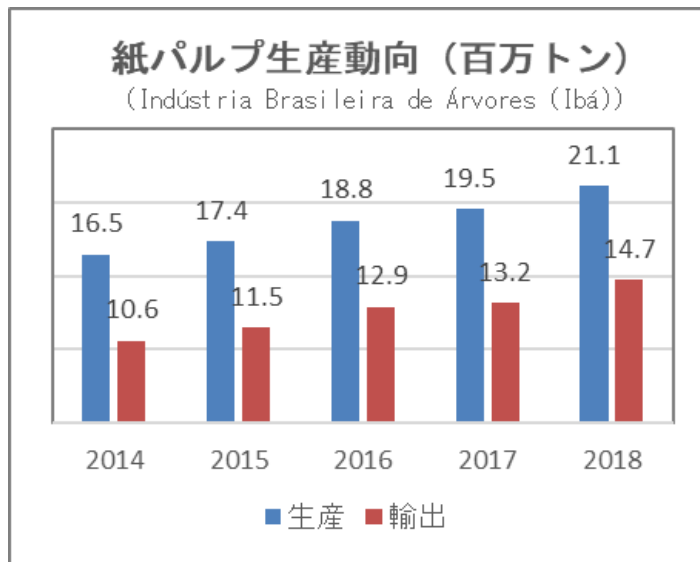
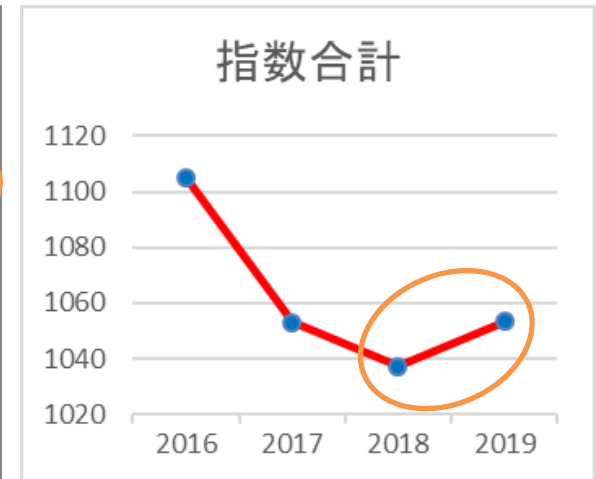
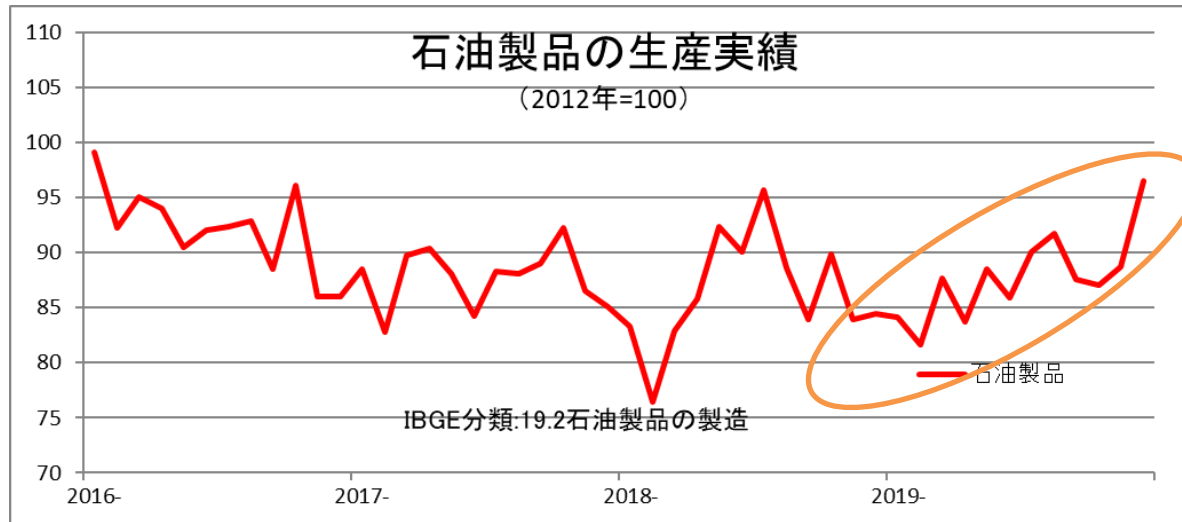
低価格の中国製機械との差別化を図るべく、取組中。

《油圧機器・マシニングセンター》

2019年:リアル安による買い控えの中、補用品の獲得に努めた。

2020年:特に油圧機器の更新需要に期待したい。

2. セグメント別状況(6) 石油・ガス、紙パルプ他関連



2. セグメント別状況(6) 石油・ガス、紙パルプ他関連

《ボイラ》

2018年まで順調に拡大してきたパルプ生産は、2019年は対前年比でマイナスとなったが、ボイラ及びEPの更新が予定されており、これらの受注を目指す。

《プラント・工場用制御システム・機器》

2019年は、鉄鋼メーカーの保全投資回復、石油・ガス上流分野の新規設備投資、パルプ産業における生産拡大投資、アルゼンチンにおけるシェールガス井戸開発投資等に伴い、受注も堅調。2020年も、同様の傾向を期待したい。

《移動式クレーン》

2019年は、クレーンの需要に回復傾向が見られた。

2020年についても、製紙業界、マイニング、エネルギー、石油・ガス業界設備投資の動向を注視する。

3. 副題について

–ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと–

1. 当部会会員企業にとって、ブラジルのビジネス環境が数年の間に改善することは見通せない。
2. また、アルゼンチンを始めとする南米他国の経済状況、米中貿易問題、新型コロナウイルス、これらの影響を受ける為替動向等々、不安要素は常に存在する。
3. 従って、現在のビジネス環境の中で、各製品・サービスに見合った事業形態(ブラジルを含む南米での生産、日本他からの製品輸入等)を常に模索する。

ご清聴ありがとうございました。

Obrigado!